

◎長崎市の財政は本当に大丈夫？

先の参議院選挙ではお蔭様で選挙区においては公認候補の山本啓介前県議を当選させて頂きました。心から御礼申し上げます。即戦力としての働きに期待します。

さて長崎市はついに人口 40 万人を切ったとの報道があっており、人口減少対策は本市の最大の課題との認識（知事の「出生率 2.0 を目指す」は達成にはかなりハードルが高く、2.0 を仮に達成したとしても母数が少ないから人口は確実に減る、だとすれば先ずはとにかく「稼ぐ力」をつけることが最優先課題・・・詳しくは9月議会質疑で知事とバトルします）を持っていますが、それと同じくらい重要と思われることに「財政が大丈夫か」ということがあると思います。

以下、ここ数日市議会の本会議での財政に関する議事録を読み、わかった数字です。

■地方債（借金）

田上市長就任時、2398 億（H19）だったので、減っていないというマイナス評価か、大型事業を次々に展開したなかでこの程度で抑えていると評価すべきか意見が分かれるところ。

R2決算	2643億（市民一人64.6万円）
R3見込	2797億
R4見込	2783億（同70万）

しかし中核市（政令市除く人口20万以上63市）ではワースト1位、人口同規模は↓
 ※富山市(41万) 2345億 岐阜市(40万) 1378億 宮崎市(40万) 1777億
 豊中市(40万) 872億 杖方市(40万) 1057億

■公債費（返済）

増加以上の問題意識は返済より起債が大きいこと

（R3 公債 225 億に対し起債 309 億）

R3	225億
R4見込	248億
R5見込	276億

■基金（貯金）年次で動く幅が大きいので年次比較はあまり意味がなく現在174億程度

一方、財政に関係しませんが、職員数はこの5年間で100人増で2800人
 人口が減っているのに職員は増。

これもちなみに 宮崎市 2115人 金沢市(46万) 2476人

市長のHPでは「財源をつくり、市民の暮らしやすさのための政策に充てながら、将来への投資をきちんとして、貯金も一定蓄えるという堅実な財政運営をしている」と記されています。

しかし毎年行う中期財政計画ではついに「向こう5年間で4年間赤字」と言明&R8の地方債見通しは2671億と現在より微減の予測。

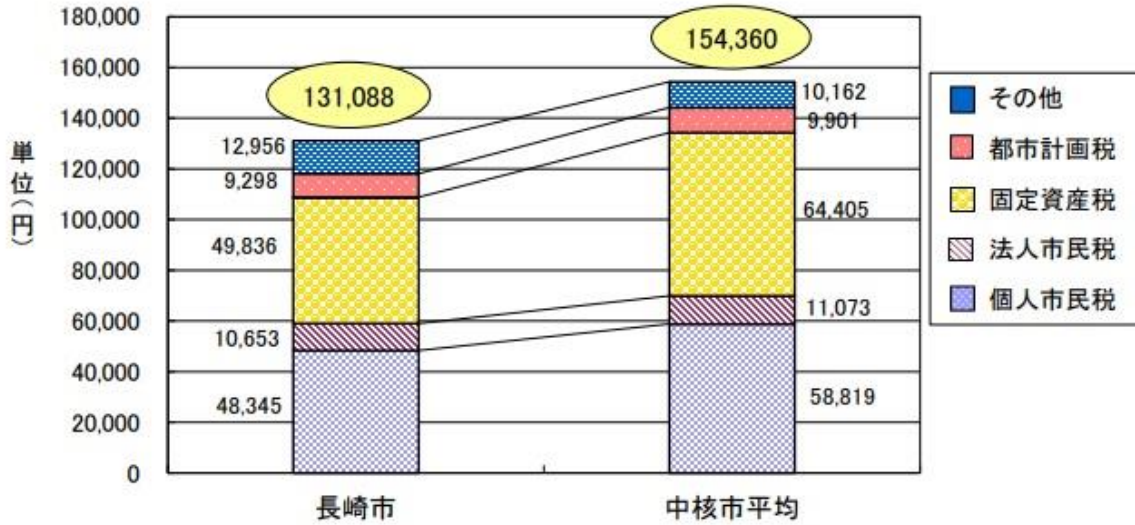
京都市（財政の健全化を示す数字は長崎市と同等）のように「財政破綻危機宣言」をだし、例えば民間の経営コンサルによる「財政の視点からメスをいれ大胆な改革を断行し、並行して多様化する行政ニーズに対し「官民共創」のもと行動せねばなりません。



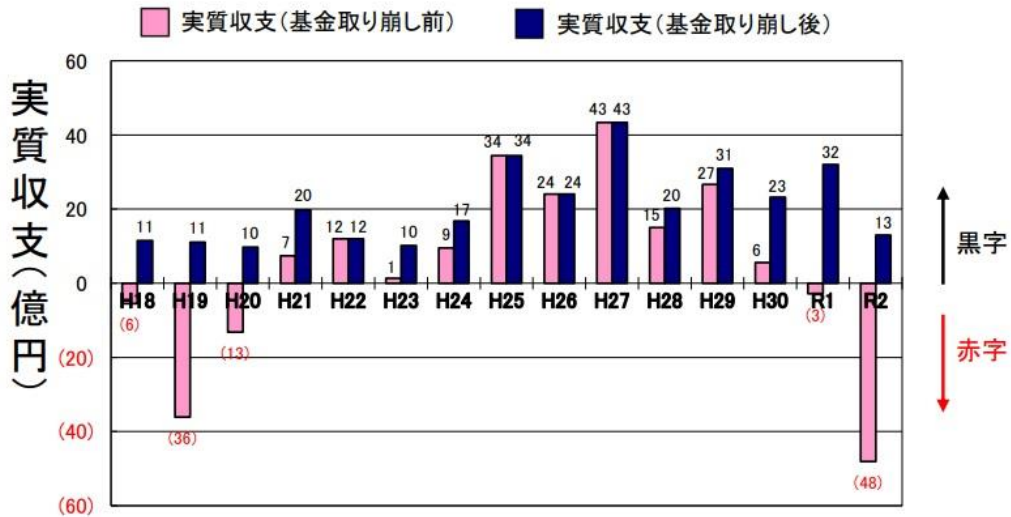
気になる指標

出典：長崎市

市民1人あたりの市税収入【令和2年度】



一般会計の実質収支の推移



市債残高の推移(普通会計)

